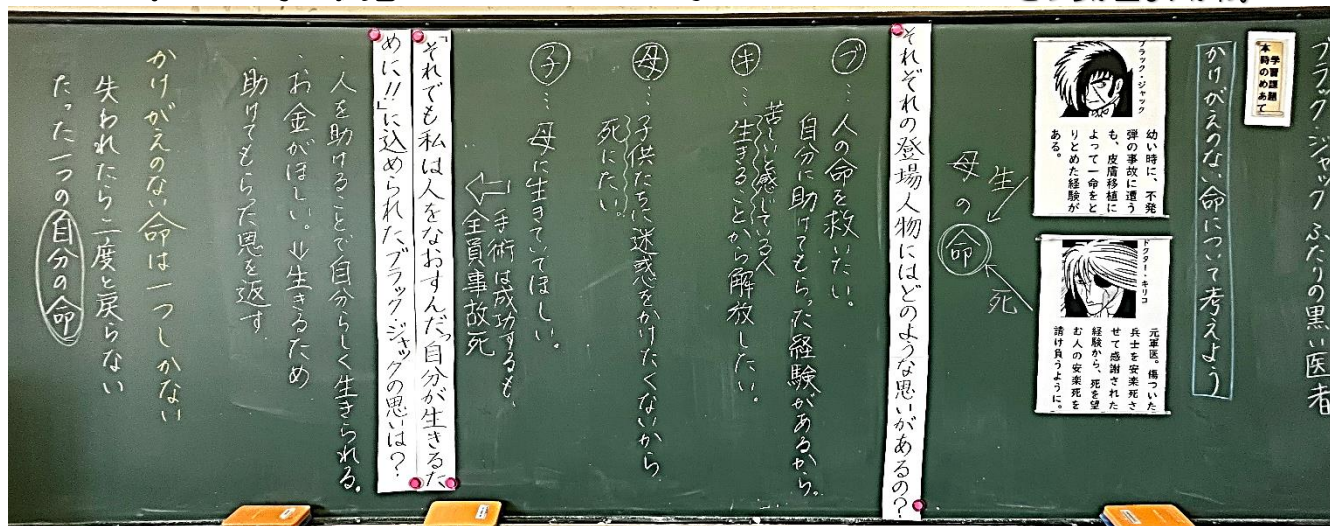


2学年 「ブラック・ジャック ふたりの黒い医者」 「生命の尊厳」について考える

人間だけが無理に生きさせようとする。
どっちが正しいかね。



9月19日、2年6組の板書

- ・無理に助けたり、生きることを押しつけたりするべきではないと考えました。人間が人間らしく生きて、自然の法則に従って、生き物として死ぬことも、人として立派な生き方だと思いました。
- ・必ずしも、長く生きる必要はないのではないかと考え、命がある中でどう生きるかのほうが大切だと考えた。
- ・死にあらがうのも個人の勝手だが、命は一つしかないということを絶対に忘れてはならない。
- ・ブラックジャックのように人を救う人もドクターキリコのように楽にしてあげる人も、どちらも必要な存在だと思う。
- ・どちらが正しいのか、という選択は難しいと思いました。

- ・生きることが命であるように、死ぬことも命であると思います。
- ・一つしかない命の使い道を選択する義務は自分にあるので、必要に迫られたときは自分で決断をくだせるようになりたい。また、他人がくだした決断を最終的には尊重できるようにしたい。
- ・誰かに支えられながら生きているのだからもう少し自分を大切にしようと思った。
- ・安楽死を望むにしても手術を受けるにしても本人の意見が大切だと思った。

生徒の感想より



明日への扉を開く鍵

今回も「学校図書館」の本中心。



学年フロアのブックトラックから、道徳に関する図書を紹介していきます。自分の視点を広げたり、考えを深めたりするきっかけにしてみましょう。

視点・鍵: かけがえのない生命の尊重

『ブラック・ジャック』 手塚治虫 秋田書店 エンタメの漫画コーナーにあります。



教科書の「ふたりの黒い医者」も、もちろん読めます。
ふじぼんお薦めは「ときには真珠のように」。ブラック・ジャックの命の恩人本間丈太郎先生のために手術をしたが、先生は帰らぬ人。本間先生の最期の言葉が、右の吹き出しです。こうして並べてみると、ドクター・キリコの問いかけと同じですね。答えは出せません。出せないからこそ、考え続けることが求められるのです。

人間が
生きもの
の死に
自由
にしよう
なんて
おこがましい
とは思わ
んかね

他の手塚作品も是非一読を。

